

STAGE+を楽しむ(204)(HP 収録)
—ノイマンのマーラーとドヴォルザーク—

1. 始めに

前報(203)に引き続き、STAGE+のノイマンのマーラーとドヴォルザークの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のノイマンのマーラーとドヴォルザークの演奏を選びました。

ヴァーツラフ・ノイマンが指揮するマーラーとドヴォルザーク
コンサート

トーマス・アレンを迎えて

収録日: 1990年8月18日

ベテラン指揮者が若い音楽家たちと共同作業をすると、血気と経験から特別なエネルギーが湧きあがり、豊潤な演奏に結実するものです。本映像には、1990年にフランクフルトのアルテ・オーパーで行われたライブの様子が収められています。中欧諸国で専制政治が次々と崩壊する情勢の中、チェコの偉大なマエストロであるヴァーツラフ・ノイマンがグスタフ・マーラー・ユーゲント管弦楽団を指揮しました。曲目は、イギリスを代表するバリトン歌手、トーマス・アレンをソリストに迎えたマーラーの《さすらう若者の歌》と、ドヴォルザーク最後の交響曲《新世界より》。生涯の経験と情熱を伝えるノイマンと、それに感化された若い演奏家たちが一体となって奏でる、歴史的な記録を存分にご堪能ください。

ソリスト:

サー・トーマス・アレン (バリトン)

演奏:

グスタフ・マーラー・ユーゲント管弦楽団

指揮:

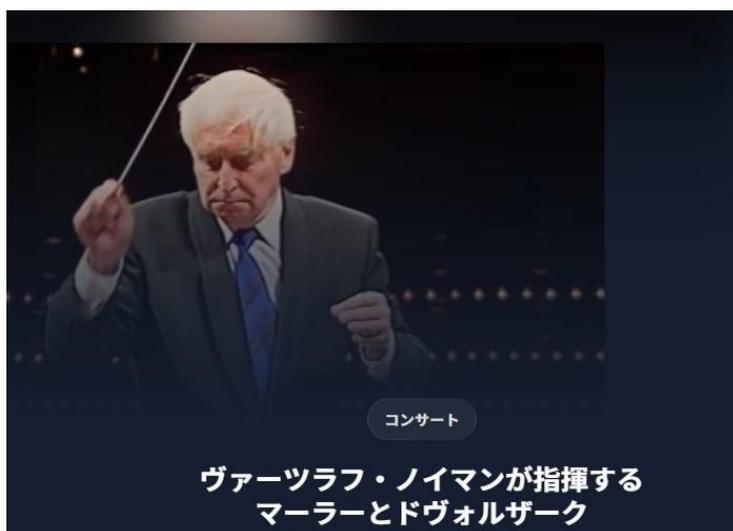
ヴァーツラフ・ノイマン

曲目:

グスタフ・マーラー 《さすらう若者の歌》

サー・トーマス・アレン(バリトン)

アントニン・ドヴォルザーク 交響曲第9番ホ短調 op. 95 《新世界より》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

マーラーのさすらう若者の歌は、お馴染みの曲で、アレンのバリトンが抑制の効いた歌唱を披露します。



ノイマンのドヴォルザークと言えば、チェコフィルを期待しますが、グスタフ・マーラー・ユージェント管弦楽団は初めて聴きます。

名称のとおり、若者達で構成されたオーケストラで、ノイマンの練達の指揮の下、中欧の牧歌的な抒情を漂わせるなかなかの熱演です。2楽章のコールアングレのソロも危なげありません。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ノイマンの練達の指揮の下、ユースオーケストラながら牧歌的な抒情を漂わせる演奏が味わえました。

以上